
ゲームみたいな第二の人生を貰ったぜ！

てんびん座

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゲームみたいな第二の人生を貰ったぜ！

【Nコード】

N3406Z

【作者名】

てんびん座

【あらすじ】

気がつくくと、俺はテンプレ通りの真っ白空間にいた。そしてやっぱり神だという人物が現れて、やっぱり転生させてくれるらしい。チート能力はもらえないらしいけど、まあ、楽しむとするか。

第零話（前書き）

他の作品がまだ終わっていないのに書いてしまいました。

第零話

「……どこだ、ここは？」

そこは白かった。視界の端から端まで全てが白く、果てがない。声を出しても反響すらしないことから、とても広い空間であることがわかる。

「俺はどうしてこんな所に……？たしか、近所のコンビニに行つて、それから……」

「死んじまつたんだなあ、うん」

背後から聞こえた声に彼は振り返った。そこには白衣を纏った金髪の博士風な男がいた。ふちなし眼鏡をクイツと押し上げ、気まずそうに彼を見つめている。

「死んだ？俺が？」

「ああ、そうだ。お前は不幸にも工事現場で起こった倒壊に巻き込まれ、全身をミンチにされて死んだ。証拠に写真見るか？」

「……いえ、結構です」

確かに、彼にはうつすらとだが家の近所に工事現場があった記憶があった。おそらく、そこでの事故のことだろう。

「お前、名前は思い出せるか？いや、前世の記憶は？」

「え、ああ。俺は……」

そこで口がピタリと止まった。自分の名前が全く思い出せなかったのだ。それだけではなく、自分の家族の顔も経歴も、自分の年齢すら思い出せない。所々が虫食いのように穴だらけになっていた。

「やっぱりか。わかってるとは思うが俺は神だ。お前は生前、二次創作が好きだったらしいから意味はわかるな？」

「まさか……」

「そうだ。実はな、その事故は本当は起こらないはずだったんだよ。二次創作でテンプレの『書類にコピー』のパターンだ。いや、本当にすっかりしていた。マジですまん」

その時、彼はネットで見た展開を思い出していた。チート能力やイケメン、果てにはTSなどやりたい放題の展開になるというものだ。

「え！じゃあ俺死んだのか!？」

全くもって寝耳に水であった。別に彼は自宅警備員でも、学校で孤独な存在だったわけでもない。未練だってまだある。

「マジで悪かったな。俺びとして好きな世界に転生してくれて構わねえ。どこの世界が良い？」

「マジか」

「マジだ」

本当に全てテンプレ通りだった。

「それなら『魔法少女リリカルなのは』の世界にしてくれ」

彼がその世界を選んだのは単純、自分も魔法を使ってみたいからだ。炸裂する砲撃、知覚すらできない高速移動、心躍る近接戦、全て彼が日常で望んでいたことだった。

「……………あゝ、あそこか」

神は遠い目をして呟いた。

「まあ、わかった。ただし、転生するのは本来かなりの例外イレギュラーだよ。だから良く見る二次創作みたいに他作品の能力を付加するのは無理だ」

昔ならいざ知らずな、と神は付け加えた。

「だが、お前にはできるだけ好条件な状態で転生させてやる。これが俺にできる最大限だ」

「……………そうなのか、わかった。色々ありがとうな」

「おう、気にすんな。元々はこっちのミスだ。第二の人生、楽しんでい」

神がそう言った瞬間、彼の足元に穴が開き彼は声を出す間もなく落ちていったのだった。

「いや、今回はマジで冷や汗もんだつたぜ」

被害者の彼が転生していった瞬間、近くの空間が光に包まれそこから簡素なパイプ椅子が現れた。神はそれにどっかりと座る。

「はあ、もし俺TUEEEが良いとか抜かす転生者だったら面倒なことになってた。転生できるだけで満足な馬鹿で助かったな」

実際、かなりの好条件で転生できるようには取り計らった。彼の第二の人生は刺激に満ちたものになるだろう。

「いや、それにしても、書類にコーヒーかけたら本当に人が死ぬのかって実験だったが……。はあ、これはもうやらねえ方が良いな」

そう言っただけで彼はベトベトになった一枚の紙を取り出した。その紙は水気を吸ってベチャベチャになり、文字の一つすら読むことができない。彼が名前を思い出せなかったのもこれが原因だ。
しかも、

「まったくアイツら、調子に乗ってかけまくりやがって」

そう、実はかけられたのはコーヒーだけではない。

メロンソーダ、サイダー、コーラ、ケチャップ、マヨネーズ、ウス
ターソース、タルタルソース、牛乳、豆乳、青汁、スポーツドリン
ク、ココア、紅茶、ウーロン茶、麦茶、ほうじ茶、オレンジジュ
ース、アップルジュース、ぶどうジュース、マンゴージュース、バナ
ナジュース、カルス、ヤルト、灯油、ガソリン、泥水、砂糖水、
食塩水、果てには人間の生き血などを大量に。

「部下が仕事を増やしてどすんだよ」

その部下たちには、彼を最高に持て成すために同じ世界に転生して
いる。ただの人間一人としてあの世界を盛り上げるためだ。

なぜ神がここまでするのかというと、他の神が好機とばかりにこれ
を材料にして反抗してくる可能性があったからだ。この神は他の神
の中でもかなり嫌われているため、充分にあり得る話だった。なら
ば、そのことが露見しなければ良い。あの転生者にはせいぜい幸せ
な人生を送ってもらって、万が一にも他の神に文句を言うことがな
いようにしなければ。

どうせ神なんて自分の仕事で手一杯だろうから言われぬ限りはバ
レないだろうし。

「ま、せいぜい隠蔽に付き合ってくれや、転生者くんよ」

第零話（後書き）

勢いで書いてしまったので、更新速度が遅いです。

今回は前作や前々作の主人公たちとは全く関係のない一般人が主人公なので、外道は………ありません、たぶん、きつと、おそらくその予定です。たまには少年漫画みたいなのを書いてみたいなと思っただけです。

もう一作の方が中心なので、更新停止はありません。どうぞご安心を。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3406z/>

ゲームみたいな第二の人生を貰ったぜ！

2011年12月11日18時47分発行